

新聞に親しみ、 自分の考えを豊かに表現できる生徒の育成

西都市立三納中学校
教諭 岩倉 徳生

1 はじめに

「知識基盤社会」と言われる21世紀を生きる生徒たちにとって、新聞に親しむことは、そのこと自体に重要な意義がある。新聞は、さまざまな情報を得ることができ、いつでも、何度でも読め、知的好奇心追究への入り口とも言える情報媒体である。しかし、若者の活字離れと言われて久しく、新聞を読まない生徒や新聞を購読していない家庭があるのも事実であり、気になる場所である。

本校は、九州山地を源流とした清流三納川がそばを流れ、緑あふれる自然豊かな田園地帯に位置している。地域の教育に対する関心は高く、学校の教育活動への協力や支援を惜しまない土地柄である。新年度及び2学期・3学期の始業の日には、「三納地域づくり協議会」の役員の方々が、早朝から正門前に立ってくださる。その際、心のこもったメッセージが書かれた用紙を、登校してくる生徒一人一人に手渡しされながら激励の声をかけてくださっている。

全校生徒数は78名で、隣接する小学校1校からのみ入学してくる生徒たちによる、各学年1クラスずつの小規模校である。学校の雰囲気は全体的に落ち着いており、素直な生徒が多く、大きな問題行動や不登校の生徒もいない。

ほとんどの生徒が小学校から9年間を一緒に過ごしてきており、3年生を中心に団結する力があり、各種の学校行事や生徒会活動を大成功に収めてきた。一方では、固定化された人間関係による小さなトラブルや、馴れ合いからの配慮に欠ける言動が見られることもある。また、学力面において男女差があり、その点を改善していくことも重要な課題である。

新聞を活用した学習としては、NIE実践校

としての指定を受ける前の平成20年度から、ある一つのことに取り組んできた。それは、生徒全員が週末の課題として家でノートやワークシートを使って取り組むもので、新聞記事やコラムを書き写した上で、要約と感想をまとめる学習である。

今回、NIE実践指定校として、これまで取り組んできた新聞を活用した学習に加えて、短歌や作文を定期的に取り、新聞に投稿する取組も始めた。

小規模校ならではの利点として、国語科だけの取組ではなく、各学年の担任と副担任が関わって新聞を活用した学習を点検したり、生徒に助言を行ったりする点が挙げられる。NIEの担当として、「新聞に親しみ、自分の考えを豊かに表現できる生徒」をテーマとして、全職員が関わってきた本校の実践について述べたい。

NIE実践指定校1年目としての新聞購読に関しては、9月から2月までの期間で、下記のように配達してもらった。各教室への配置を2週間ローテーションにし、複数の新聞を読むことができるようにした。

- ・宮崎日日新聞～9月、10月、11月、12月
- ・日本経済新聞～9月、10月、11月、12月
- ・西日本新聞～9月、10月、11月、12月
- ・朝日新聞～11月、12月、1月、2月
- ・毎日新聞～11月、12月、1月、2月
- ・読売新聞～11月、12月、1月、2月

2 実践の概要

- (1) コラムや記事の視写と要約及び感想を書く活動
- (2) 生徒作品の新聞への投稿
- (3) NIEコーナーの設置

(4) 新聞記事から自分の考えを深める授業

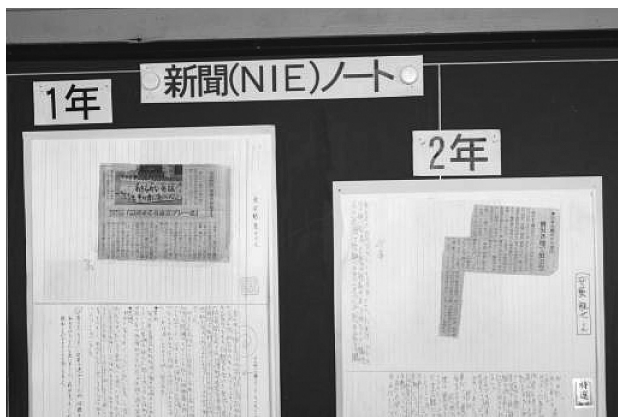
3 具体的な取組

(1) コラムや記事の視写と要約及び感想を書く活動

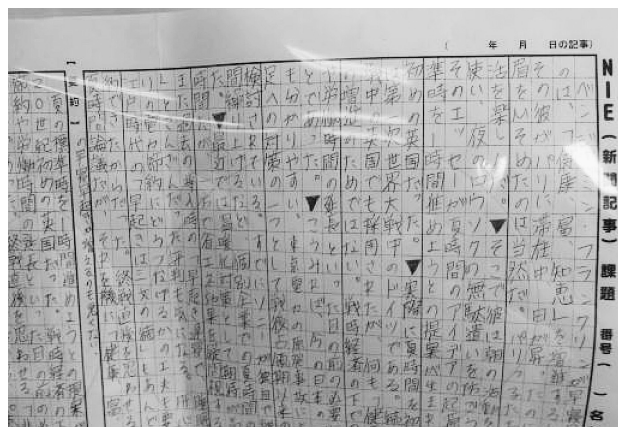
新聞記事の活用の仕方としては、1年生は、主に自分が関心をもった記事を切り抜いてノートに貼り、記事の要約と感想をまとめる方法である。2年生は、1年生と同様に選んだ記事を活用するパターンと、教師側で提示したコラムを使うパターンの二通りで行っている。3年生は、教師側が提示する複数の新聞社のコラムを使って書く活動を行っている。

(2) 生徒作品の新聞への投稿

1学期から新聞への投稿を呼びかけてきたが、自主的に投稿する生徒がなかなか出てこなかつ

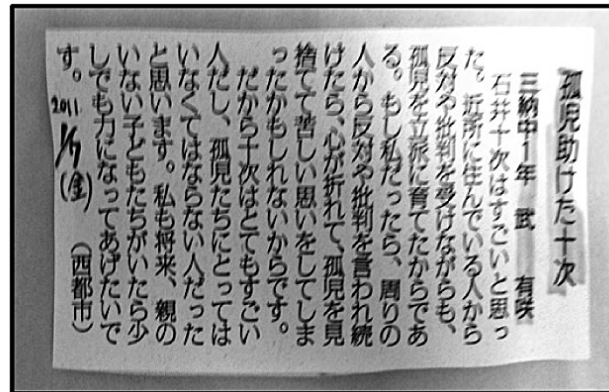


(資料1：1・2年生のノートのコピー)



(資料2：3年生のワークシート)

た。そこで、2学期からは、月に1回テーマに沿って生徒全員に作文を書かせるようにした。その中から、各学年で優秀作品を2点ずつ選定し、計6点を新聞に投稿(宮崎日日新聞「若い目」欄)するようにした。



(資料3：新聞に掲載された作文)

なお、作文の内容については、学校行事を中心にしたものや「さいと学(総合的な学習の時間)」の授業で学習した福祉に関する内容や、新聞記事の感想及び自由なテーマとした。以下は、作文のテーマにした内容例である。

- 小中合同運動会・体育大会
- 文化祭
- 地域ボランティア活動
- 修学旅行
- 平成22年を振り返って
- 立志の集い
- 入試へ向けて

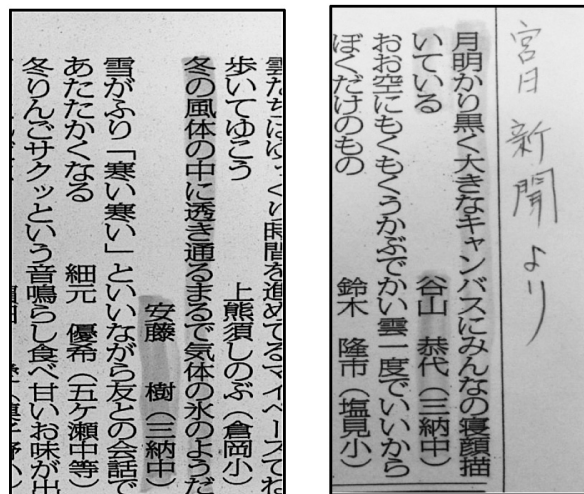
(3) NIEコーナーの設置

各学級及び、職員室入り口近くの掲示板にNIEコーナーを設けている。そこには、前に述べた(1)と(2)の生徒作品や、新聞に掲載して掲載された作品の新聞切り抜きを掲示している。教室に掲示した新聞記事やコラムの要約・感想をまとめたものについては、担任及び副担任が簡単なコメントを添えたものを掲示するようにしており、生徒は友達の間で目にする中で、要約の仕方や感想のまとめ方を自分の表現に取り入れることができるなど、参考になっているようである。

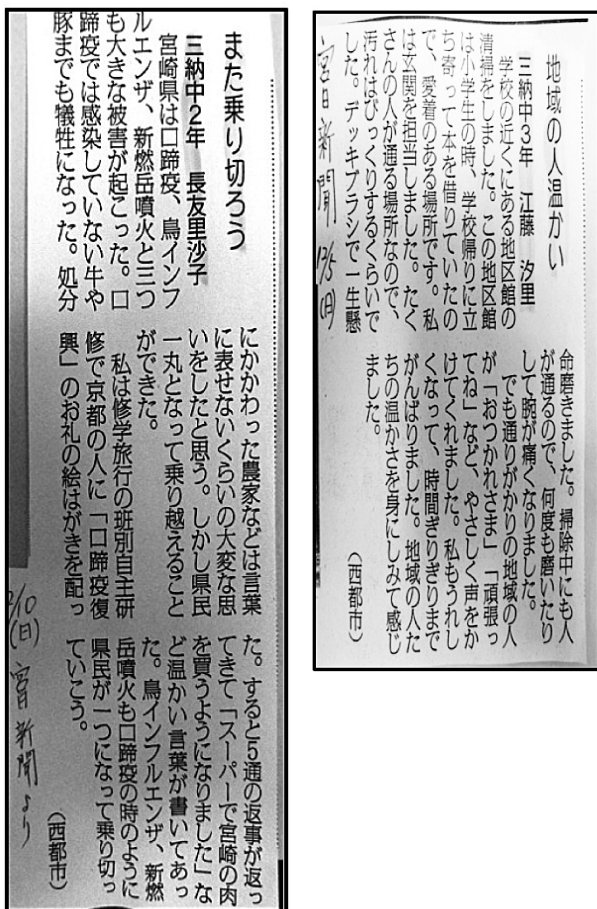


(資料4：教室のNIEコーナー)

ら自由なテーマに変えたところ、のびのびと自分の思いを作品にしたものが増えていった。



(資料6：新聞に掲載された短歌)



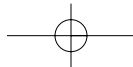
(資料5：廊下に掲示した投稿作文)

作文と同様に、毎月、短歌も新聞に投稿している。全校生徒が毎月作った作品の中から何首か選び、まとめて投稿している。当初は、固定のテーマに沿って作品を作っていたが、途中か

(4) 新聞記事から自分の考えを深める授業
 今日的な社会問題、特に本県を揺るがした口蹄疫の問題に目を向けさせ、自分の考えを整理して意見を述べる活動を考えた。口蹄疫の問題については、どの生徒も関心をもっており、中学生として何かできることをしたいという生徒が多かった。身近な問題に題材を得てまとめた文章は、各方面への応援メッセージや感謝の言葉、提言となるよう指導した。対話しながら納得する文章を書くことで、様々な視点から物事を認識し、自分の思いや考えを深めさせようとした。

4 終わりに

多様に変化する社会を生きる生徒たちに、言葉で伝え合う能力、すなわち「自分の考えを持ち、それを目的や場面などに応じて、互いの立場や考えを尊重しながら適切に表現する能力」を育成するため、新聞に親しみ、新聞を活用する機会や学習活動をより充実させていきたい。



第3学年A組 国語科学習指導案

平成22年5月31日

指導者 岩倉 徳生

- 1 単元 説得力のある文章を書こう～新聞記事から自分の考えを深め、意見文を書く～
- 2 目標 ○関心・意欲・態度【省略】○話すこと・聞くこと【省略】○自分の立場とその理由を明確にし、読み手に分かりやすい文章構成で書くことができる。(書くこと)○読むこと【省略】○言語についての知識・理解・技能【省略】
- 3 指導観【省略】
- 4 指導計画【省略】
- 5 本時の目標 ○相互交流を通して自分の作文を見直し、伝えたいことが伝わる文章を書くことができる。
- 6 学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価	資料・準備
1 短い文章の音読練習を行う。 2 前時までの学習を振り返り、本時の学習について考える。 (1) 前時に書いた要約を黙読し、誰(どこ)に伝えたい文章にするかを確かめ、本時の学習の見通しを立てる。 3 学習課題を設定する。	○ ペアで音読し、聞き合う。 ○ 口蹄疫の問題に関わる多方面の人たちへ視点を向けさせる。 (例：農家、行政、獣医師、警察官、自衛官、一般県民、ボランティア等)	○ しっかりと声に出しているか。(表現力)	音読資料集 「さいとの国語」 ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 伝えたいことが伝わるような文章を書こう。 </div>			
4 下書きをした後、アドバイスをもとに推敲する。 (1) 新聞記事の要約と感想から、意見文の下書きをする。 (2) グループ内で下書きを読み合い、気づいたことをカードに記入して渡す。 (3) 相互評価をもとに推敲した下書きを使って発表する。 5 本時の学習について振り返り、次時の学習について知る。	○ 一文に複数の事柄を盛り込まないように指示する。 ○ 机間指導し、必要に応じて助言する。 ○ 「推敲のポイント」を参考に相互評価しながら、推敲させる。 ○ アドバイスを受けたことも加えて発表させる。 ○ 本時の学習を振り返らせ、次時の学習への意欲を喚起する。	○ 友達のよい点を挙げ、自分の表現に生かそうとしているか。(表現力)	記入カード ワークシート

